

令和4年度 幸区区民アンケート調査 概要版

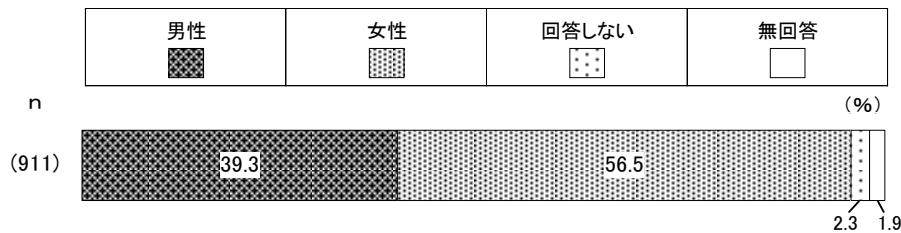
調査の概要

- 【調査対象】 幸区内在住の18歳以上の個人（外国人含む）
 【標本抽出】 令和4年9月30日現在の住民基本台帳に基づく無作為抽出
 【調査方法】 郵送配布、郵送回収またはインターネット回答
 【調査期間】 令和4年10月14日～10月28日
 【回収結果】 調査件数：2,000件
 有効回収数：911件
 有効回収率：45.6%
- 【調査項目】
- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 幸区について | (8) 児童虐待について |
| (2) 区民サービスについて | (9) 高齢者支援について |
| (3) 自転車事故防止対策について | (10) 障害者支援について |
| (4) 防災について | (11) 行政の情報について |
| (5) 地域コミュニティについて | (12) 公園の利用について |
| (6) 地域包括ケアシステムについて | (13) 自由意見 |
| (7) 子育て支援について | |

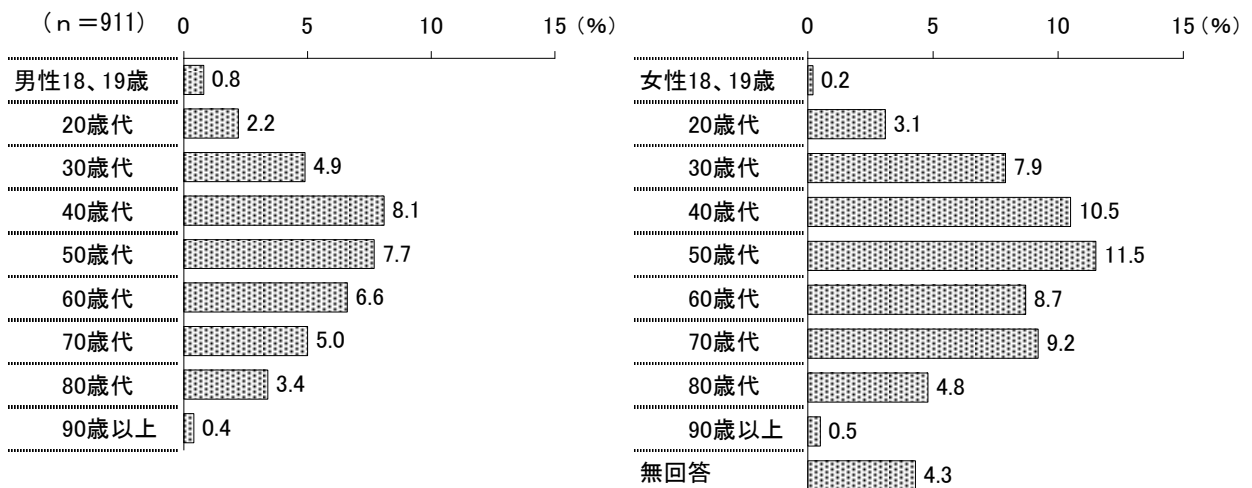
※ 図中における基数となるべき実数（n）は回答者数を示している。また、本文中の「構成比（%）」は小数点以下第2位を四捨五入していること、並びに複数回答によるものも含まれていることから、構成比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。

○調査回答者の属性

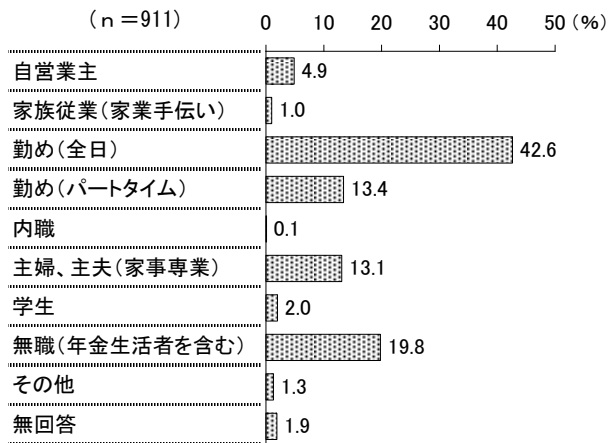
(1) 性別



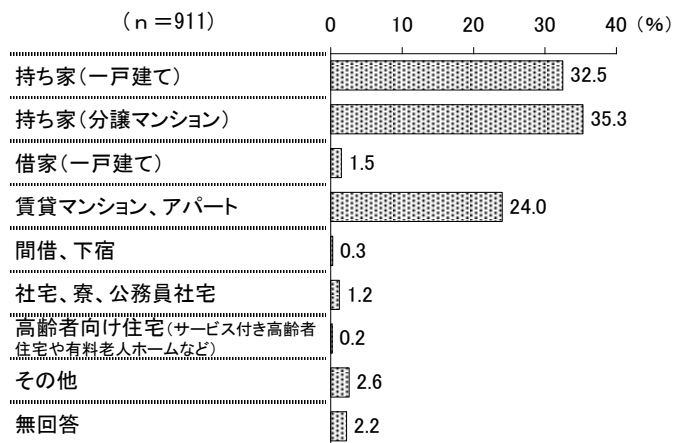
(2) 年齢



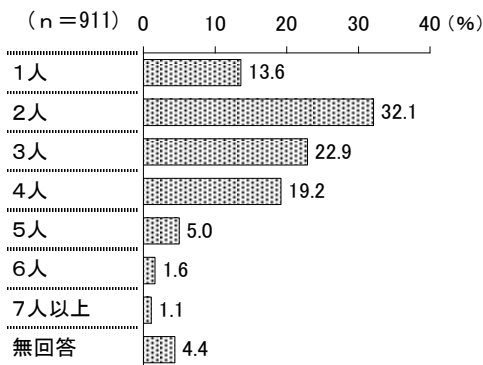
(3) 職業



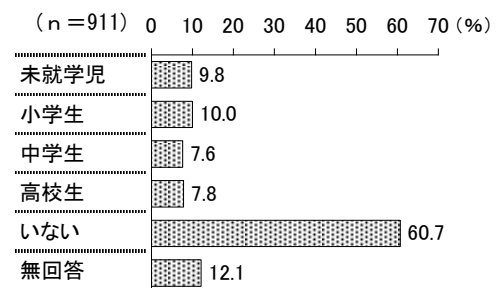
(4) 居住形態



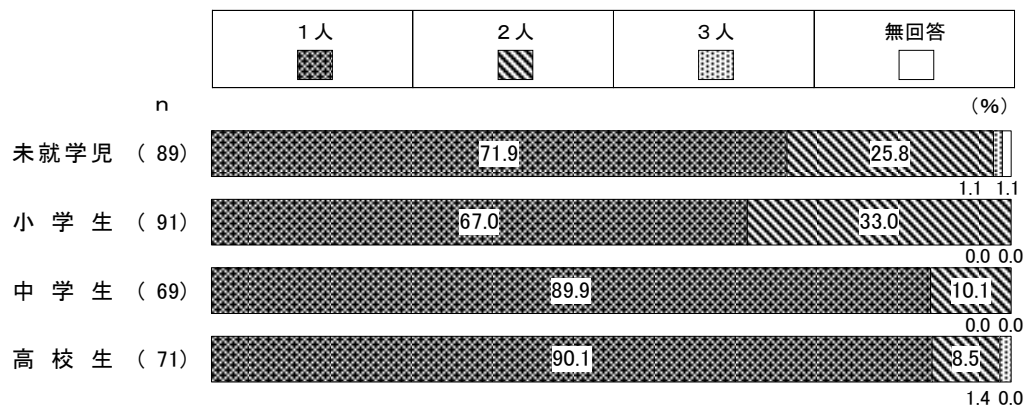
(5) 同居家族



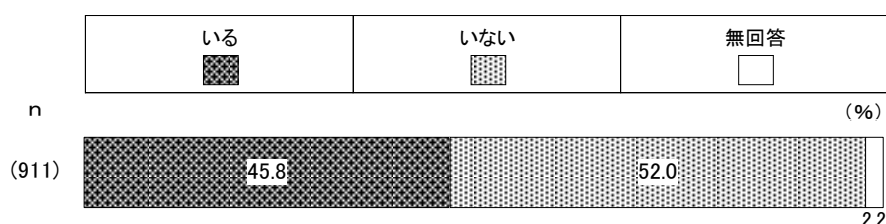
(6) 同居の未就学児、小学生、中学生、高校生の有無
(複数回答)



(6-1) 同居の未就学児、小学生、中学生、高校生の人数



(7) 高齢者(65歳以上)の同居状況



(8) 居住地区



※各地区の内訳

【幸区役所管内】

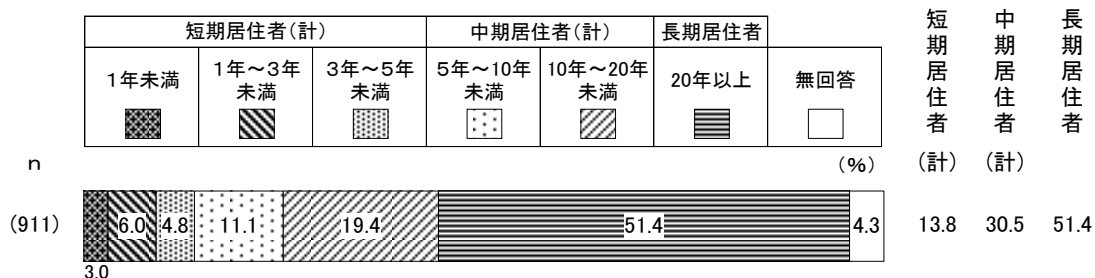
南河原地区：大宮町、幸町、中幸町、堀川町、南幸町、都町、柳町

御幸地区：遠藤町、河原町、小向町、小向仲野町、小向西町、紺屋町、下平間、新塚越、神明町、塚越、戸手、戸手本町、東古市場、古市場、古川町

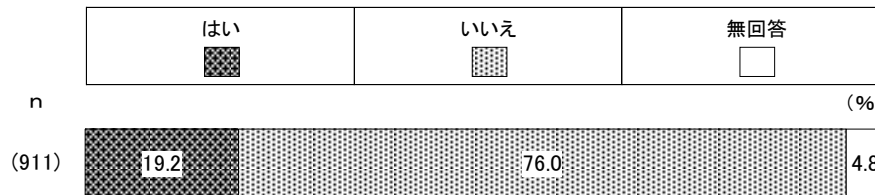
【日吉出張所管内】

日吉地区：小倉、鹿島田、北加瀬、新小倉、新川崎、東小倉、南加瀬、矢上

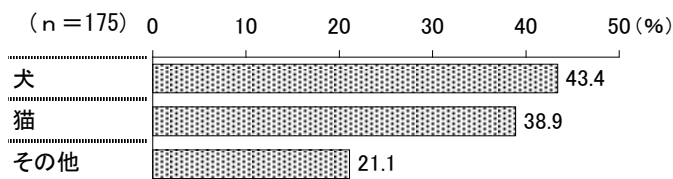
(9) 居住年数



(10) ペット（犬や猫など）の有無



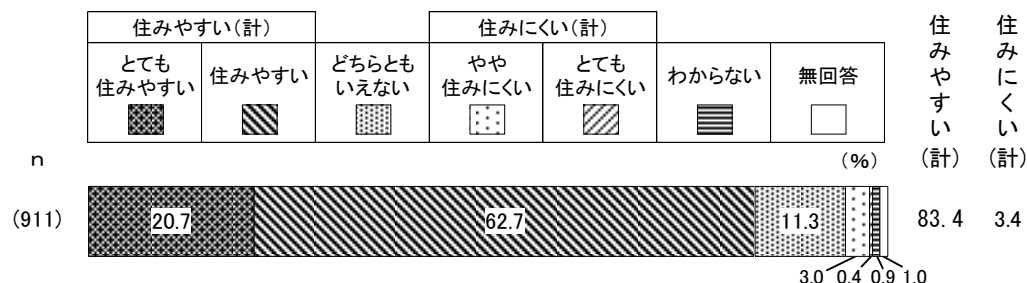
(10-1) 飼っているペットの種類（複数回答）



1 幸区について

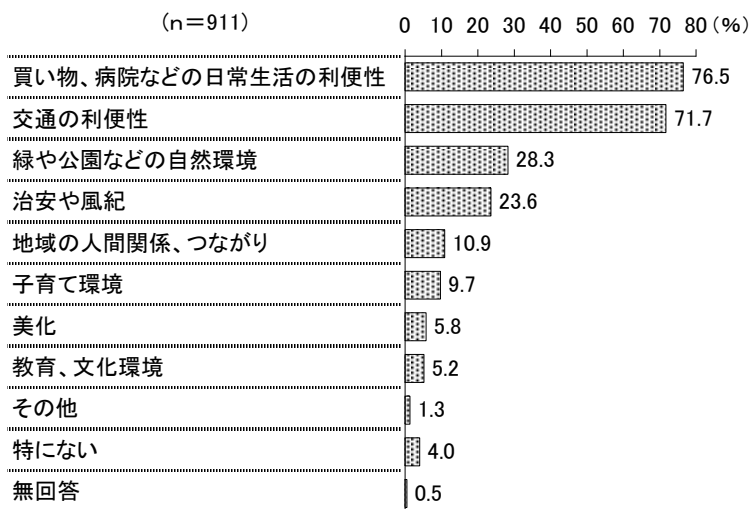
(1) 幸区の住みやすさ

「とても住みやすい」(20.7%)と「住みやすい」(62.7%)を合わせた『住みやすい(計)』は83.4%となっている。



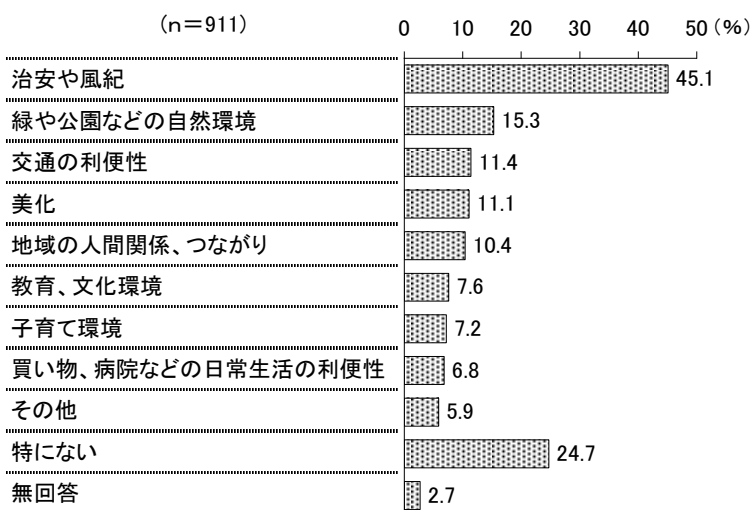
(2) 幸区の良いと感じるところ (複数回答)

「買い物、病院などの日常生活の利便性」が76.5%で最も高く、次いで「交通の利便性」(71.7%)、「緑や公園などの自然環境」(28.3%)と続いている。



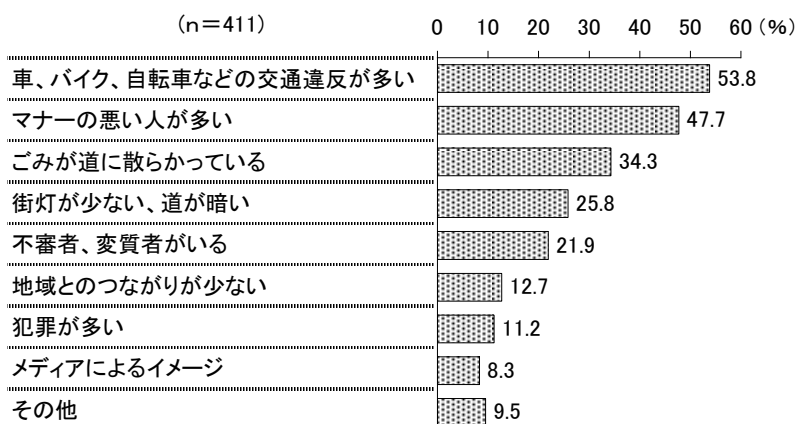
(3) 幸区の不満に感じる点 (複数回答)

「治安や風紀」が45.1%で最も高く、次いで「緑や公園などの自然環境」(15.3%)、「交通の利便性」(11.4%)と続いている。一方、「特にない」は24.7%となっている。



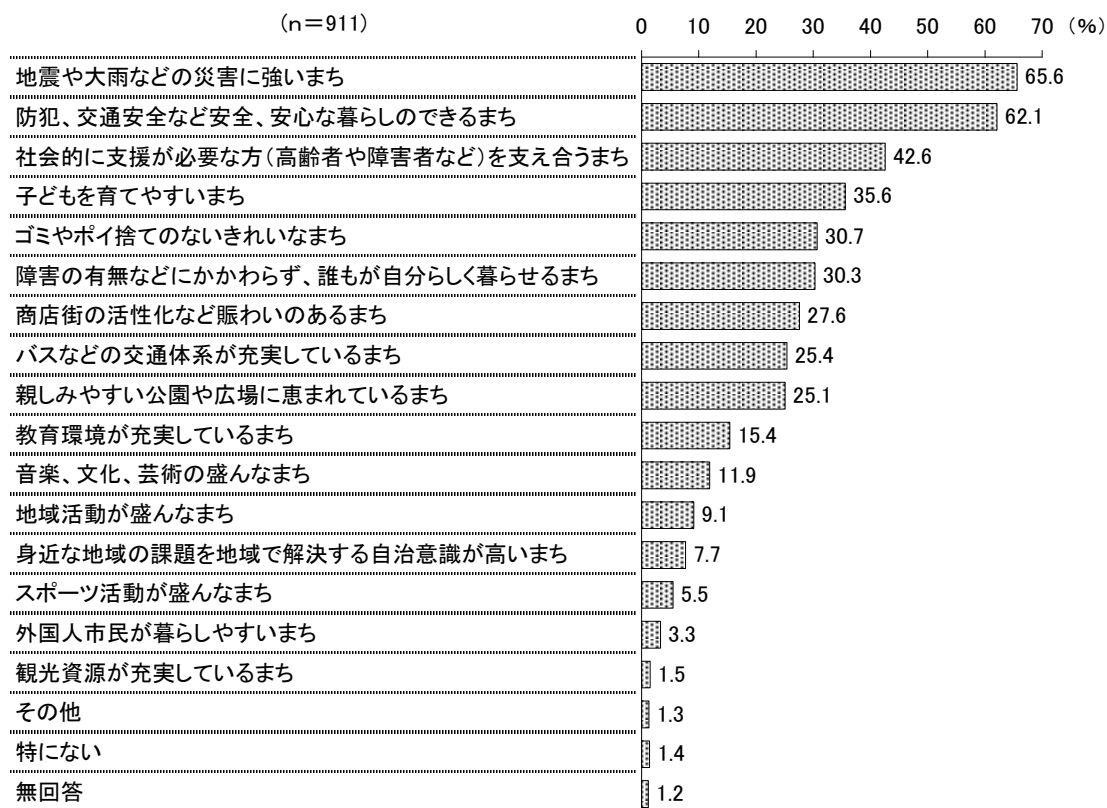
(4) 治安や風紀で不満に感じる点 (複数回答)

「車、バイク、自転車などの交通違反が多い」が53.8%で最も高く、次いで「マナーの悪い人が多い」(47.7%)、「ゴミが道に散らかっている」(34.3%)と続いている。



(5) 「10年後の幸区」について、どのような「まち」をめざすべきか（複数回答）

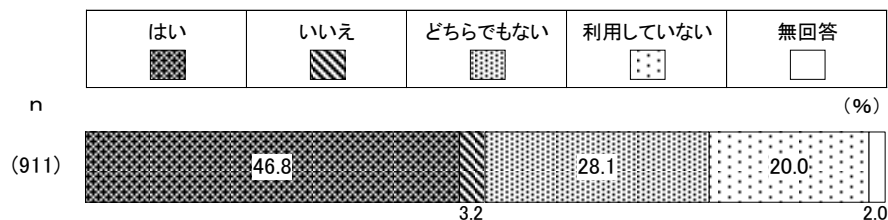
「地震や大雨などの災害に強いまち」が65.6%で最も高く、次いで「防犯、交通安全など安全、安心な暮らしのできるまち」(62.1%)、「社会的に支援が必要な方（高齢者や障害者など）を支え合うまち」(42.6%)と続いている。



2 区民サービスについて

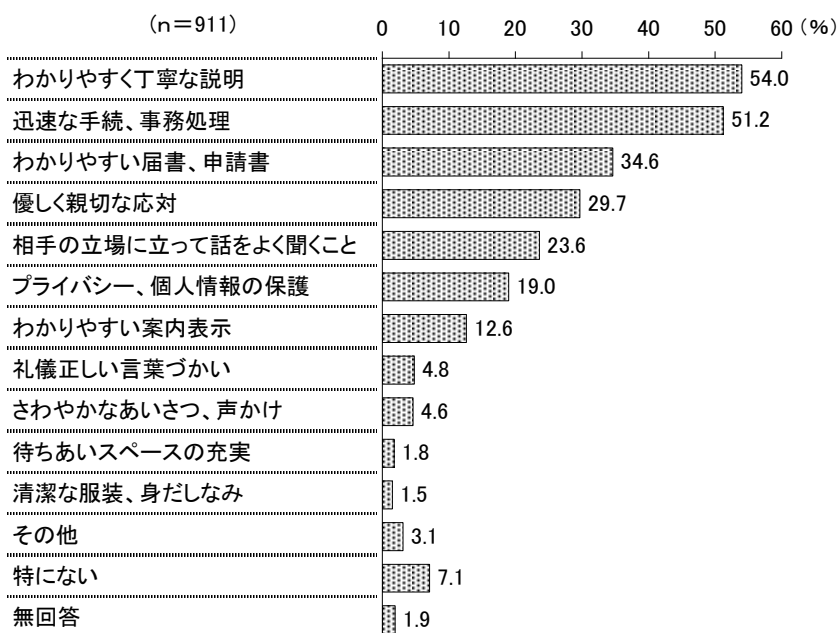
(1) 区役所での対応の満足度

「はい（満足している）」が46.8%、「いいえ（満足していない）」は3.2%となっている。また、「どちらでもない」は28.1%、「利用していない」は20.0%となっている。



(2) 窓口サービスなどに期待するもの (複数回答)

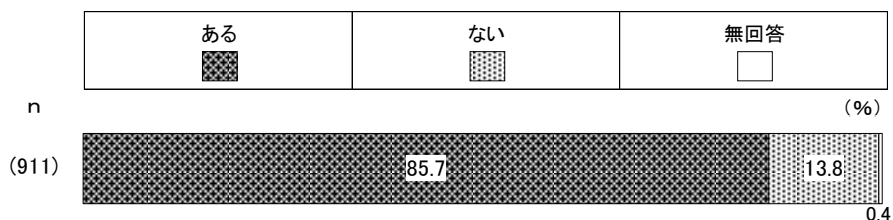
「わかりやすく丁寧な説明」が54.0%で最も高く、次いで「迅速な手続、事務処理」(51.2%)、「わかりやすい届書、申請書」(34.6%)と続いている。



3 自転車事故防止対策について

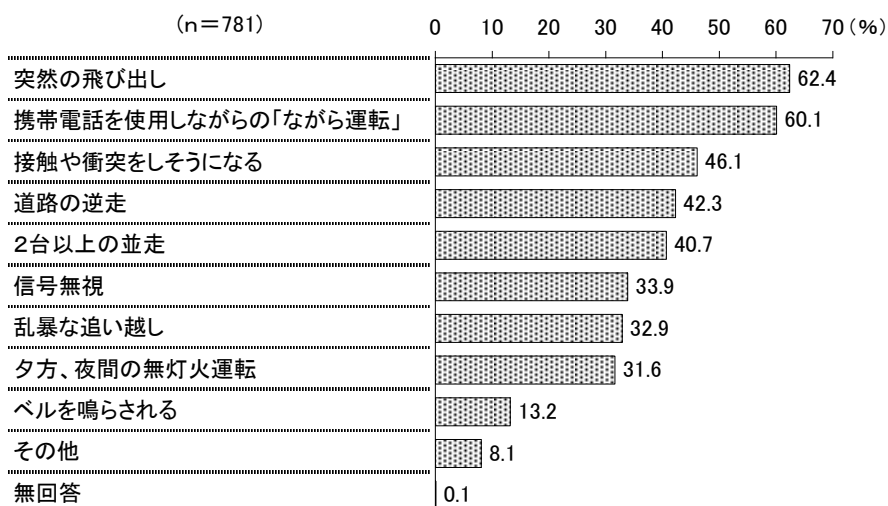
(1) 自転車に危険を感じたことがあるか

「ある」が85.7%、「ない」は13.8%となっている。



(2) 自転車に危険を感じた状況 (複数回答)

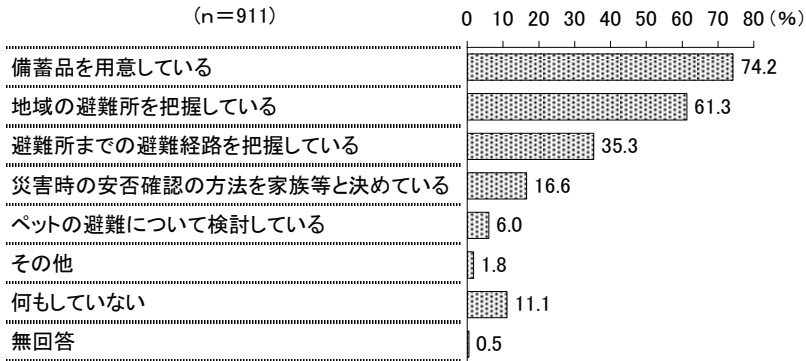
「突然の飛び出し」が62.4%で最も高く、次いで「携帯電話を使用しながらの『ながら運転』」(60.1%)、「接触や衝突をしそうになる」(46.1%)と続いている。



4 防災について

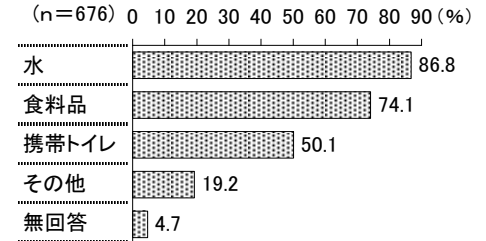
(1) 災害に備えて行っていること (複数回答)

「備蓄品を用意している」が74.2%で最も高く、次いで「地域の避難所を把握している」(61.3%)、「避難所までの避難経路を把握している」(35.3%)と続いている。



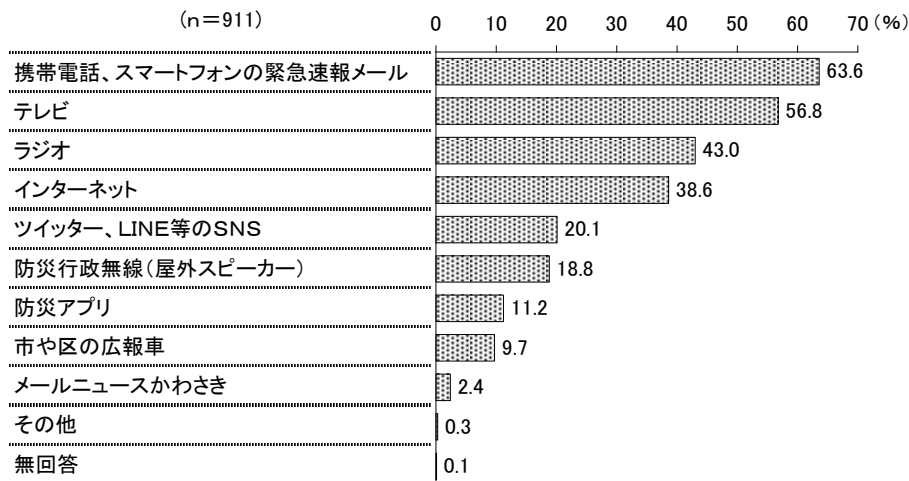
<備蓄しているもの> (複数回答)

「水」が86.8%で最も高く、次いで「食料品」(74.1%)と続いている。



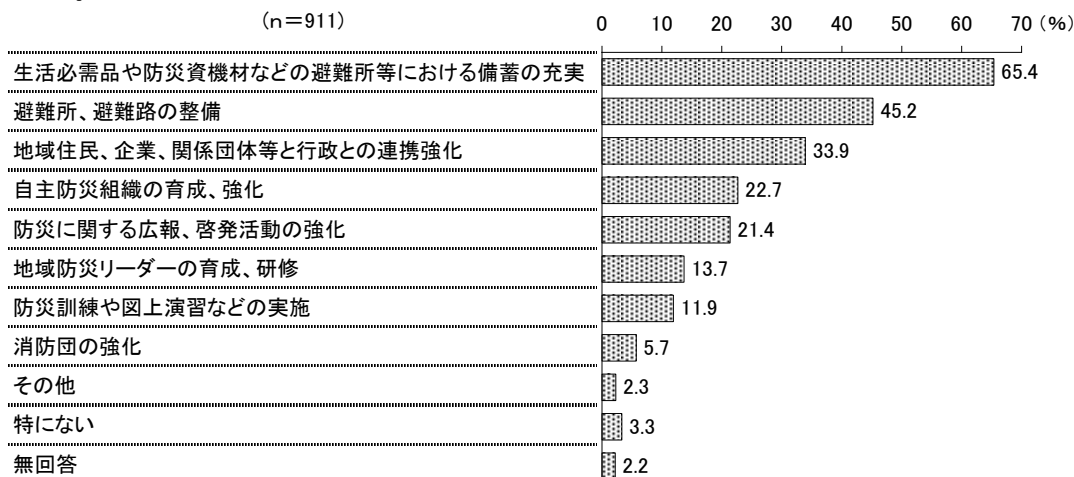
(2) 災害時に情報を得るための手段として有効なもの (複数回答)

「携帯電話、スマートフォンの緊急速報メール」が63.6%で最も高く、次いで「テレビ」(56.8%)、「ラジオ」(43.0%)と続いている。



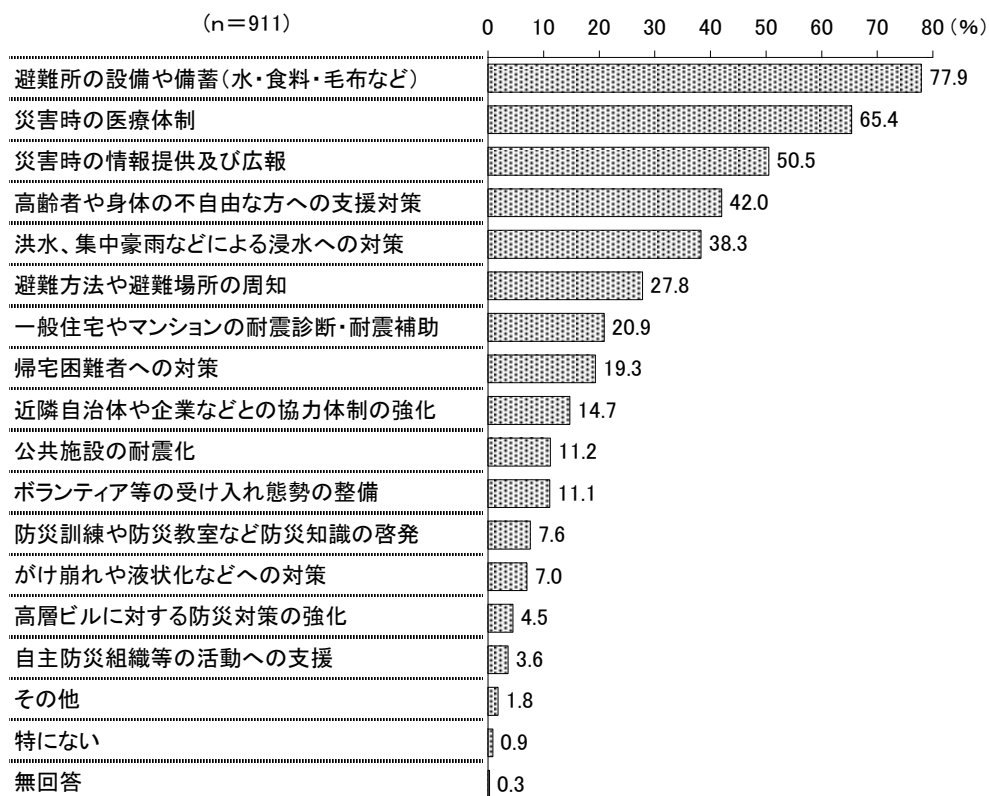
(3) 地域の防災力向上のために力を入れるべきこと (複数回答)

「生活必需品や防災資機材などの避難所等における備蓄の充実」が65.4%で最も高く、次いで「避難所、避難路の整備」(45.2%)、「地域住民、企業、関係団体等と行政との連携強化」(33.9%)と続いている。



(4) 防災対策で行政が力を入れるべきこと（複数回答）

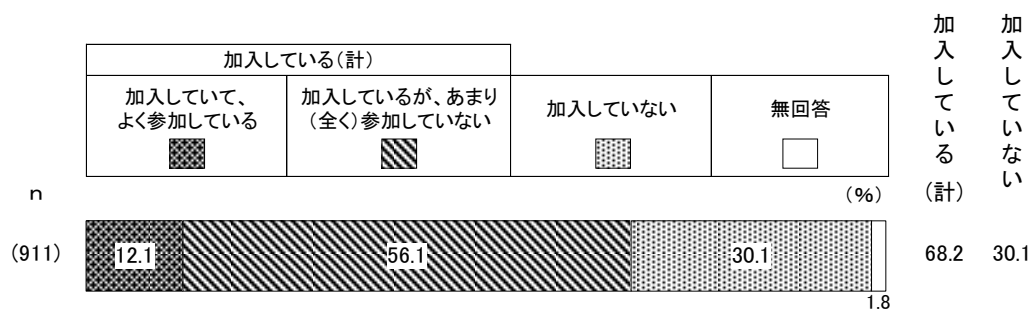
「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」が 77.9%で最も高く、次いで「災害時の医療体制」（65.4%）、「災害時の情報提供及び広報」（50.5%）と続いている。



5 地域コミュニティについて

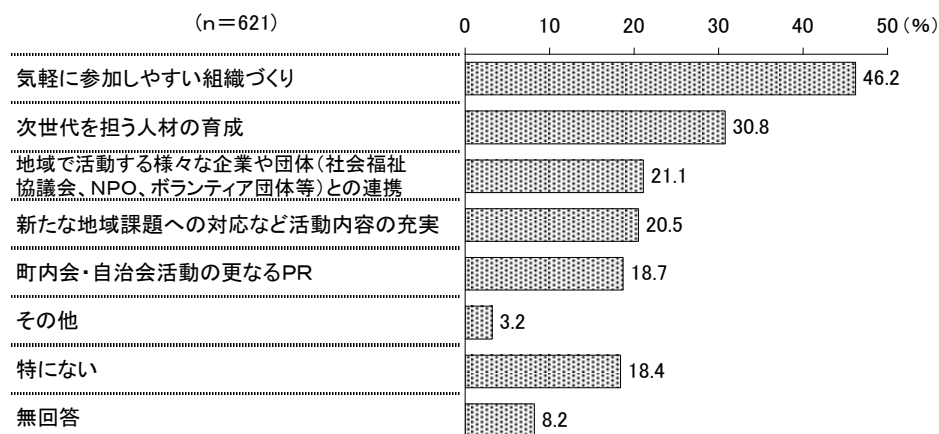
(1) 町内会・自治会の加入状況

「加入していて、よく参加している」（12.1%）と「加入しているが、あまり（全く）参加していない」（56.1%）を合わせた『加入している（計）』は 68.2%となっている。



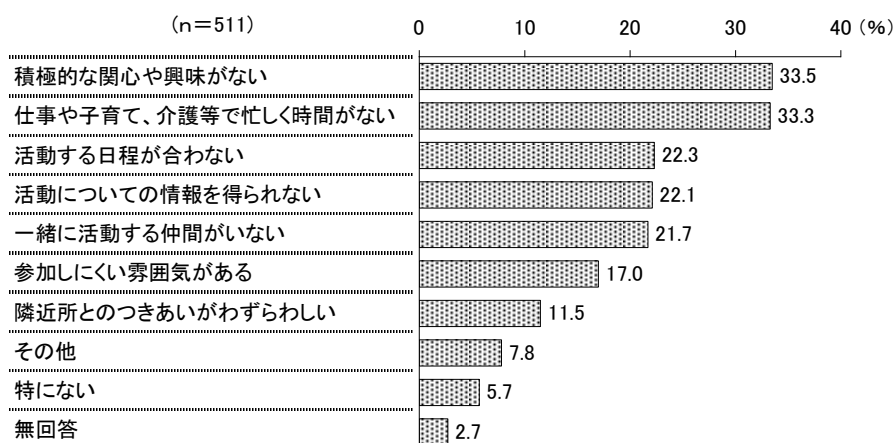
(2) 町内会・自治会活動に期待すること (複数回答)

「気軽に参加しやすい組織づくり」が46.2%で最も高く、次いで「次世代を担う人材の育成」(30.8%)、「地域で活動する様々な企業や団体(社会福祉協議会、NPO、ボランティア団体等)との連携」(21.1%)と続いている。



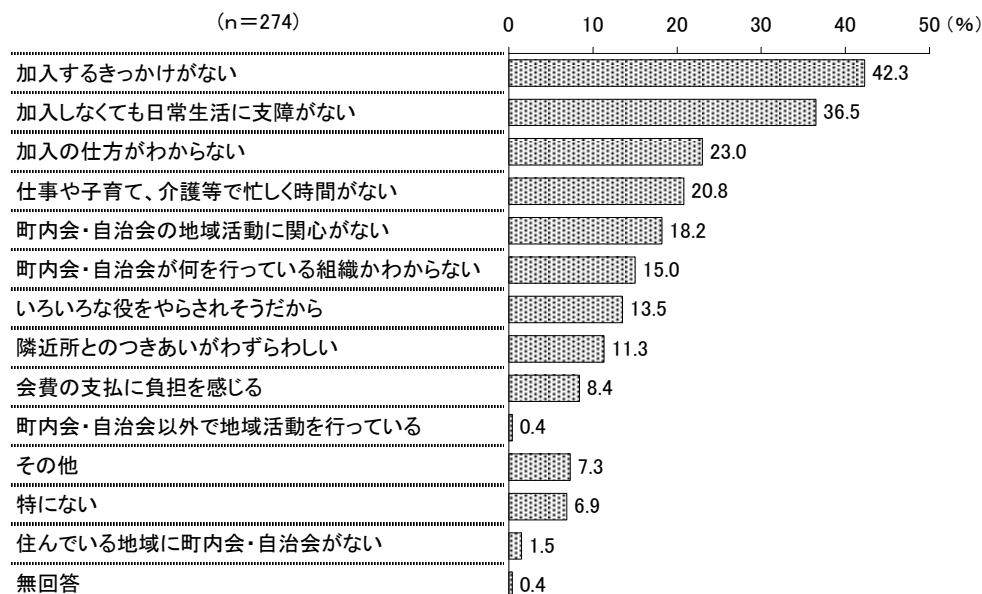
(3) 町内会・自治会活動に参加しない理由 (複数回答)

「積極的な関心や興味がない」が33.5%で最も高く、次いで「仕事や子育て、介護等で忙しく時間がない」(33.3%)、「活動する日程が合わない」(22.3%)と続いている。



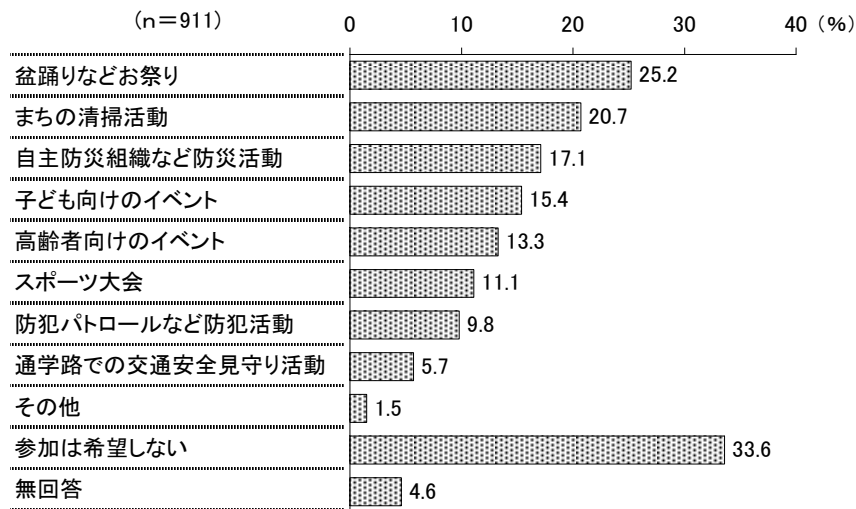
(4) 町内会・自治会に加入していない理由 (複数回答)

「加入するきっかけがない」が42.3%で最も高く、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(36.5%)、「加入の仕方がわからない」(23.0%)と続いている。



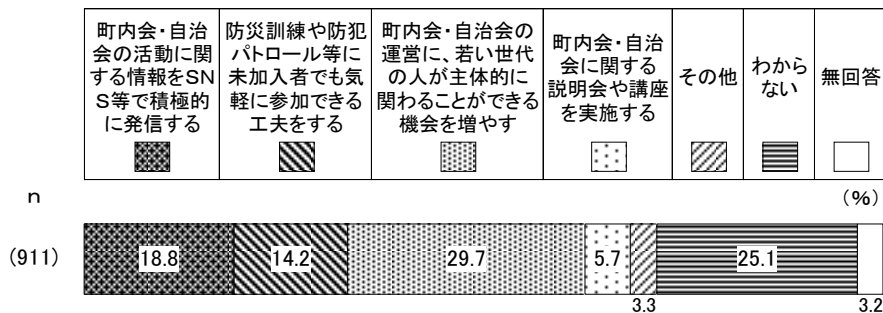
(5) 町内会・自治会の活動で参加してみたいこと（複数回答）

「盆踊りなどお祭り」が25.2%で最も高く、次いで「まちの清掃活動」(20.7%)、「自主防災組織など防災活動」(17.1%)と続いている。一方、「参加は希望しない」は33.6%となっている。



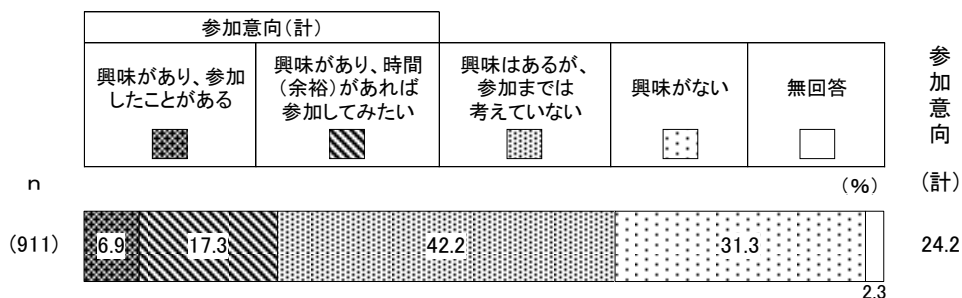
(6) 町内会・自治会の活動に関心を持ってもらうために有効な方法

「町内会・自治会の運営に、若い世代の人が主体的に関わることができる機会を増やす」が29.7%で最も高く、次いで「町内会・自治会の活動に関する情報を SNS 等で積極的に発信する」(18.8%)、「防災訓練や防犯パトロール等に未加入者でも気軽に参加できる工夫をする」(14.2%)と続いている。



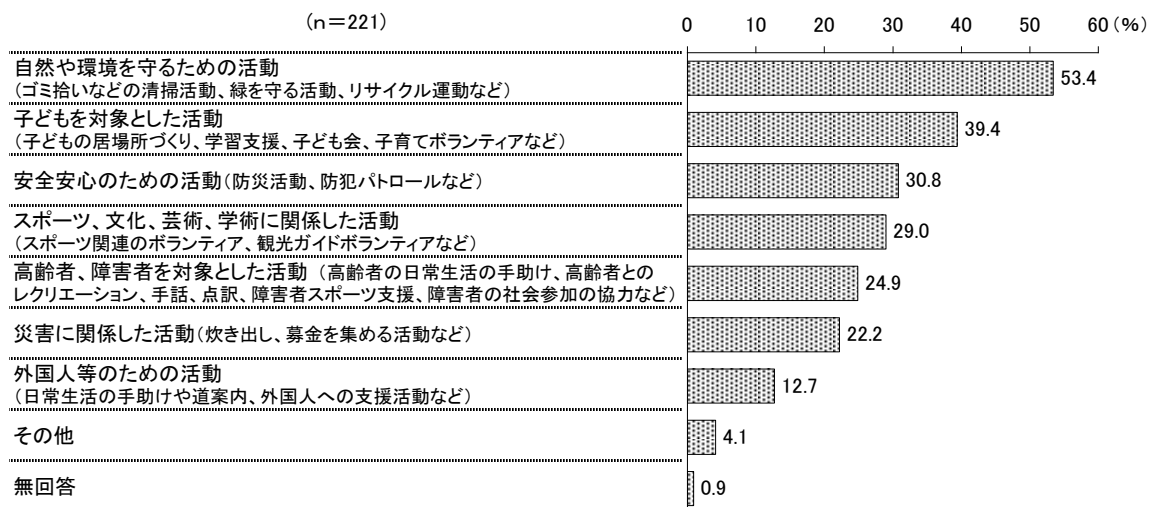
(7) ボランティア等の市民活動への興味

「興味があり、参加したことがある」(6.9%)と「興味があり、時間(余裕)があれば参加してみたい」(17.3%)を合わせた『参加意向(計)』は24.2%となっている。一方、「興味はあるが、参加までは考えていない」が42.2%、「興味がない」は31.3%となっている。



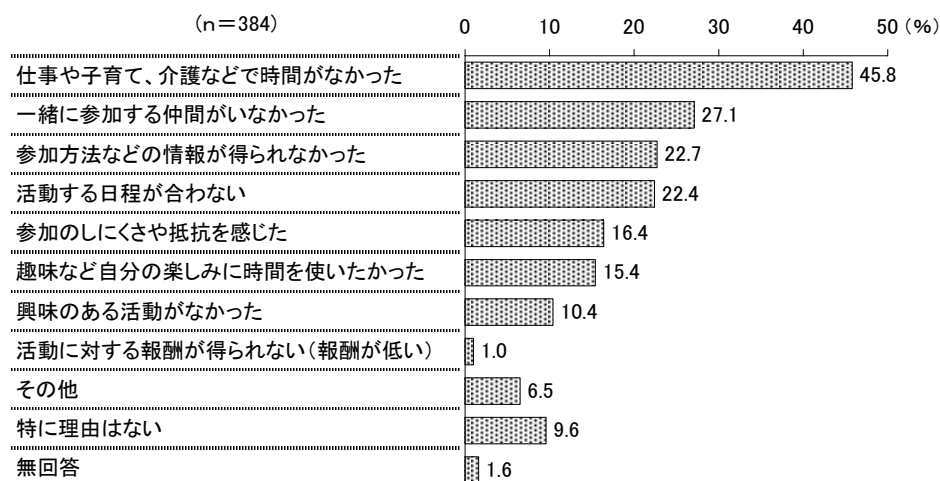
(8) 「参加したことがある」もしくは「参加してみたい」市民活動の分野 (複数回答)

「自然や環境を守るための活動」が 53.4%で最も高く、次いで「子どもを対象とした活動」(39.4%)、「安全安心のための活動」(30.8%)と続いている。



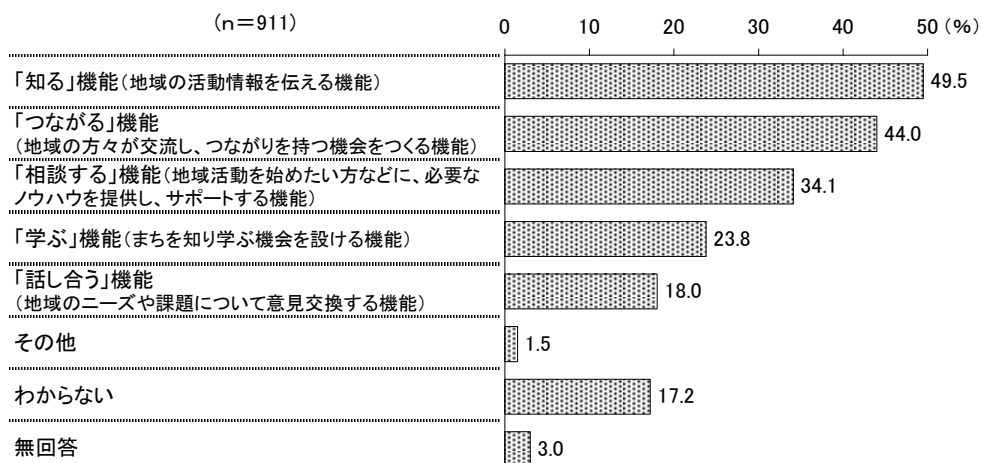
(9) 市民活動への参加にいたらなかった理由 (複数回答)

「仕事や子育て、介護などで時間がなかった」が 45.8%で最も高く、次いで「一緒に参加する仲間がいなかった」(27.1%)、「参加方法などの情報が得られなかった」(22.7%)と続いている。



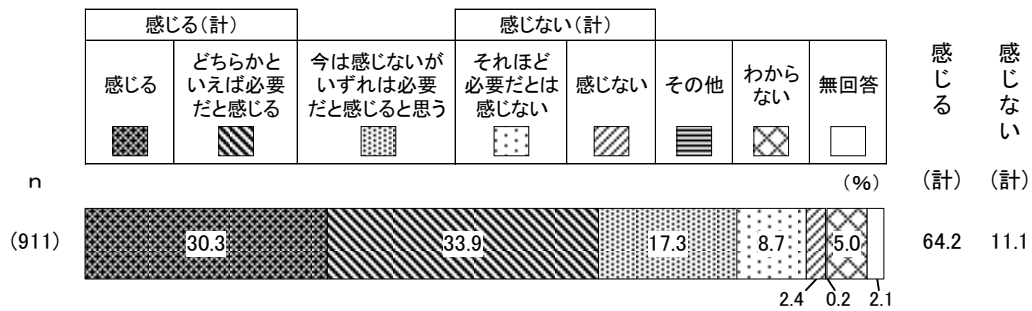
(10) 市民活動やコミュニティ活動を行っていくために必要な機能 (複数回答)

「『知る』機能」が 49.5%で最も高く、次いで「『つながる』機能」(44.0%)、「『相談する』機能」(34.1%)と続いている。



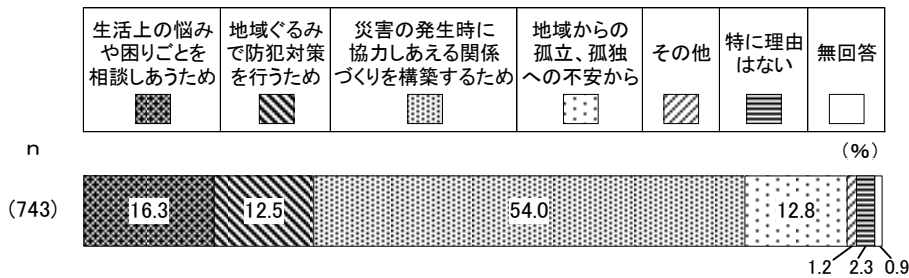
(11) 地域とのつながりの必要性

「感じる」(30.3%)と「どちらかといえば必要だと感じる」(33.9%)を合わせると、64.2%の人が地域とのつながりが必要と感じている。



(12) 地域とのつながりが必要な理由

「災害の発生時に協力しあえる関係づくりを構築するため」が54.0%で最も高く、次いで「生活上の悩みや困りごとを相談しあうため」(16.3%)、「地域からの孤立、孤独への不安から」(12.8%)と続いている。

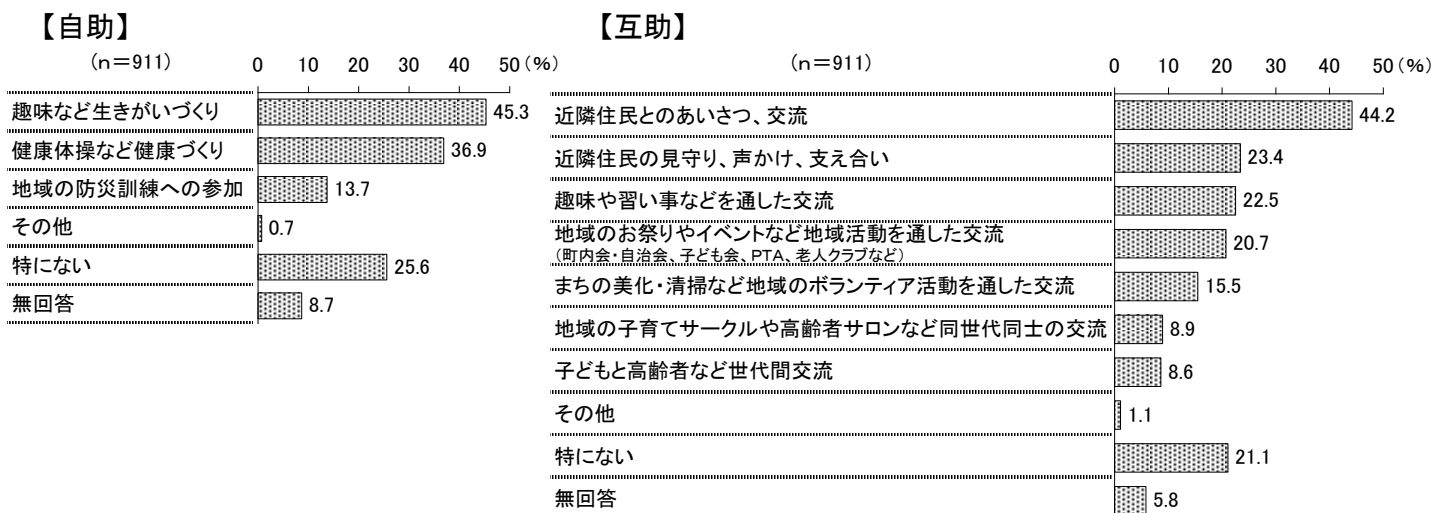


6 地域包括ケアシステムについて

(1) 自助、互助について行っていること、行ってみたいこと(複数回答)

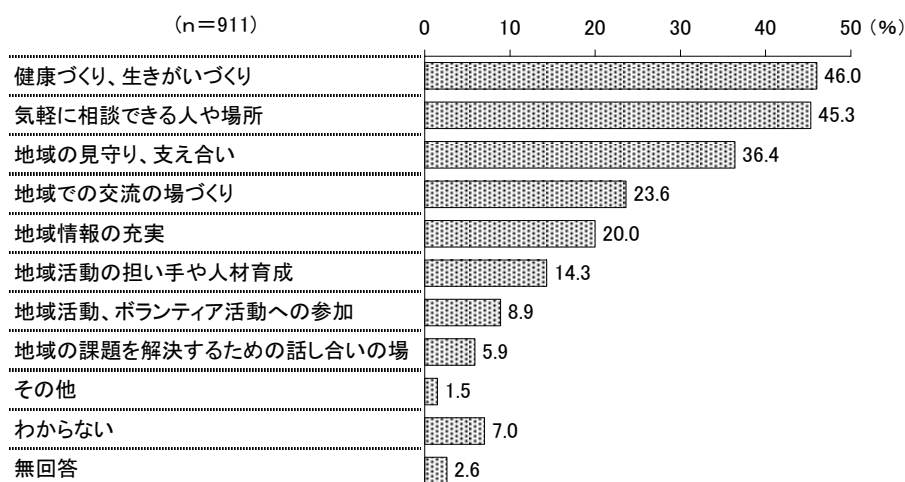
【自助】について行っていること(行ってみたいこと)を聞いたところ、「趣味など生きがいづくり」が45.3%で最も高く、次いで「健康体操など健康づくり」(36.9%)と続いている。

また、【互助】について行っていること(行ってみたいこと)を聞いたところ、「近隣住民とのあいさつ、交流」が44.2%で最も高く、次いで「近隣住民の見守り、声かけ、支え合い」(23.4%)と続いている。



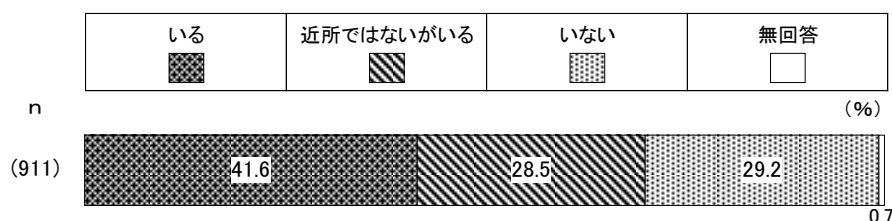
(2) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なこと（複数回答）

「健康づくり、生きがいがづくり」が46.0%で最も高く、次いで「気軽に相談できる人や場所」(45.3%)、「地域の見守り、支え合い」(36.4%)と続いている。



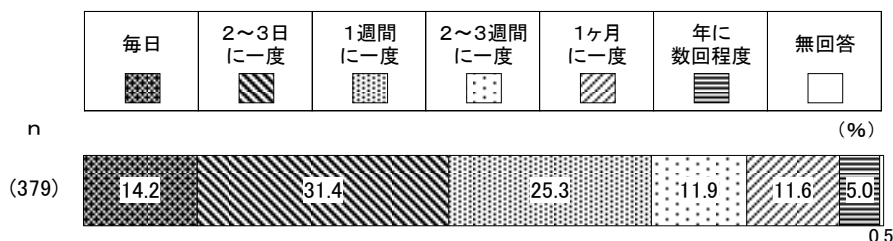
(3) 近所の話し相手の有無

「いる」が41.6%、「近所ではないがいる」は28.5%となっている。一方、「いない」は29.2%となっている。



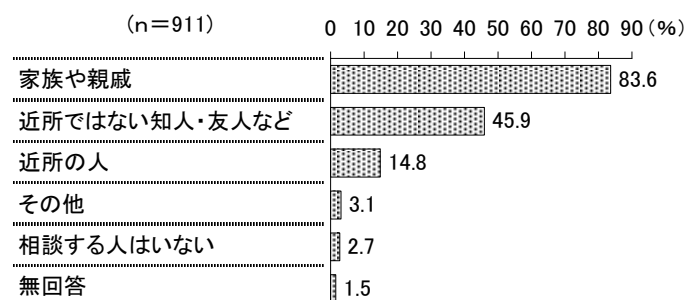
(4) 近所の話し相手との会話の頻度

「2～3日に一度」が31.4%で最も高く、次いで「1週間に一度」(25.3%)、「毎日」(14.2%)と続いている。



(5) 何かあったときの相談相手（複数回答）

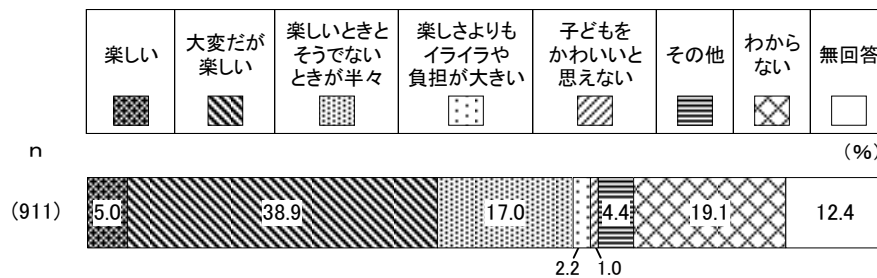
「家族や親戚」が83.6%で最も高く、次いで「近所ではない知人・友人など」(45.9%)、「近所の人」(14.8%)と続いている。



7 子育て支援について

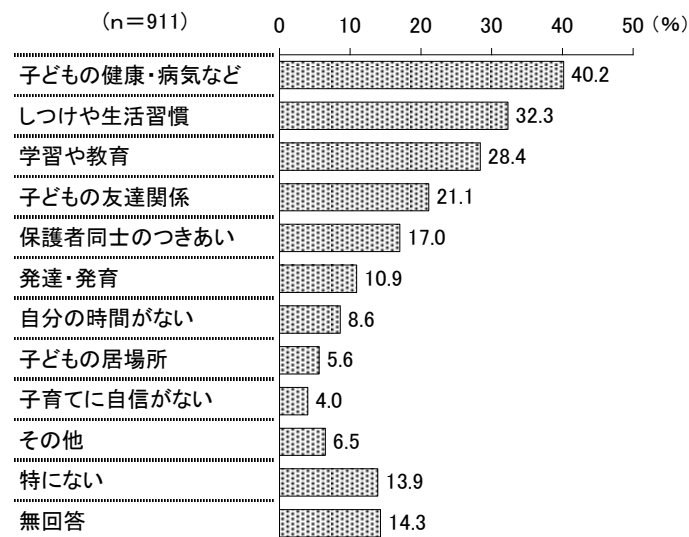
(1) 子育てについて感じること

「大変だが楽しい」が38.9%で最も高く、次いで「楽しいときとそうでないときが半々」(17.0%)、「楽しい」(5.0%)と続いている。



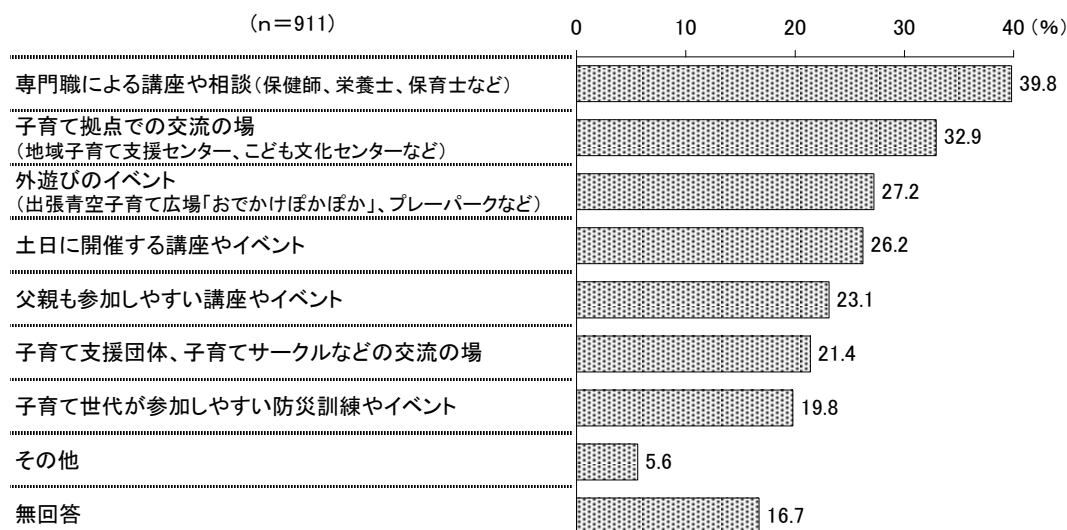
(2) 子育てをしているときに感じる不安や悩み (複数回答)

「子どもの健康・病気など」が40.2%で最も高く、次いで「しつけや生活習慣」(32.3%)、「学習や教育」(28.4%)と続いている。



(3) 子育て支援の取り組みについて効果的だと思うもの (複数回答)

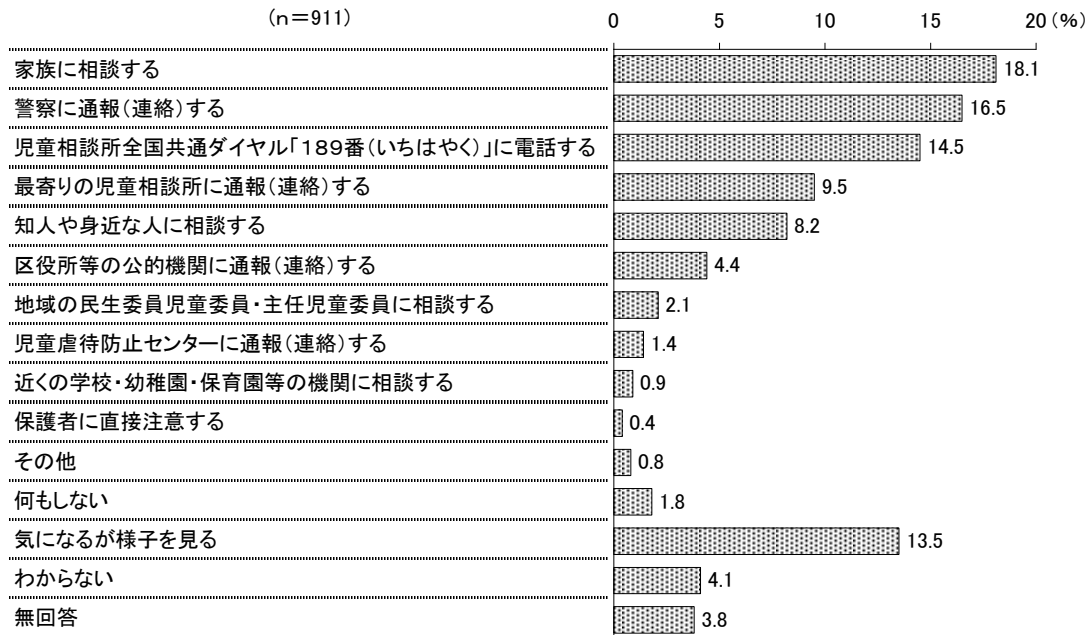
「専門職による講座や相談」が39.8%で最も高く、次いで「子育て拠点での交流の場」(32.9%)、「外遊びのイベント」(27.2%)と続いている。



8 児童虐待について

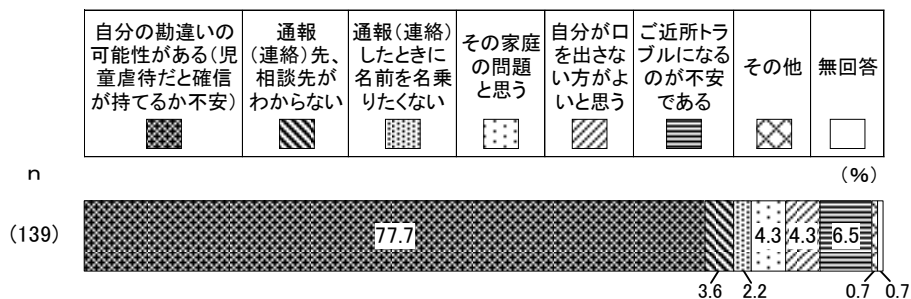
(1) 児童虐待と思われる家庭を知ったときの対応

「家族に相談する」が18.1%で最も高く、次いで「警察に通報（連絡）する」(16.5%)、「児童相談所全国共通ダイヤル『189番（いちはやく）』に電話する」(14.5%)と続いている。



(2) 児童虐待への対応が消極的な理由

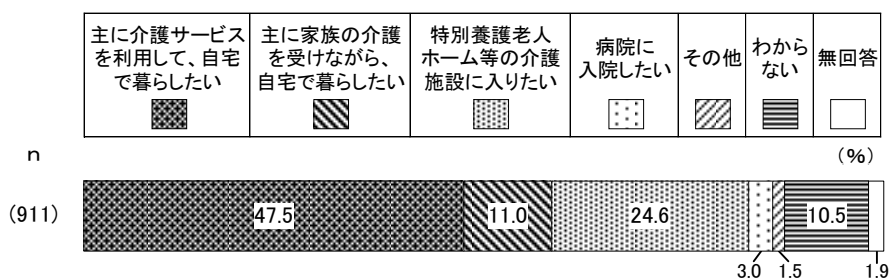
「自分の勘違いの可能性がある（児童虐待だと確信が持てるか不安）」が77.7%で最も高く、次いで「ご近所トラブルになるのが不安である」(6.5%)と続いている。



9 高齢者支援について

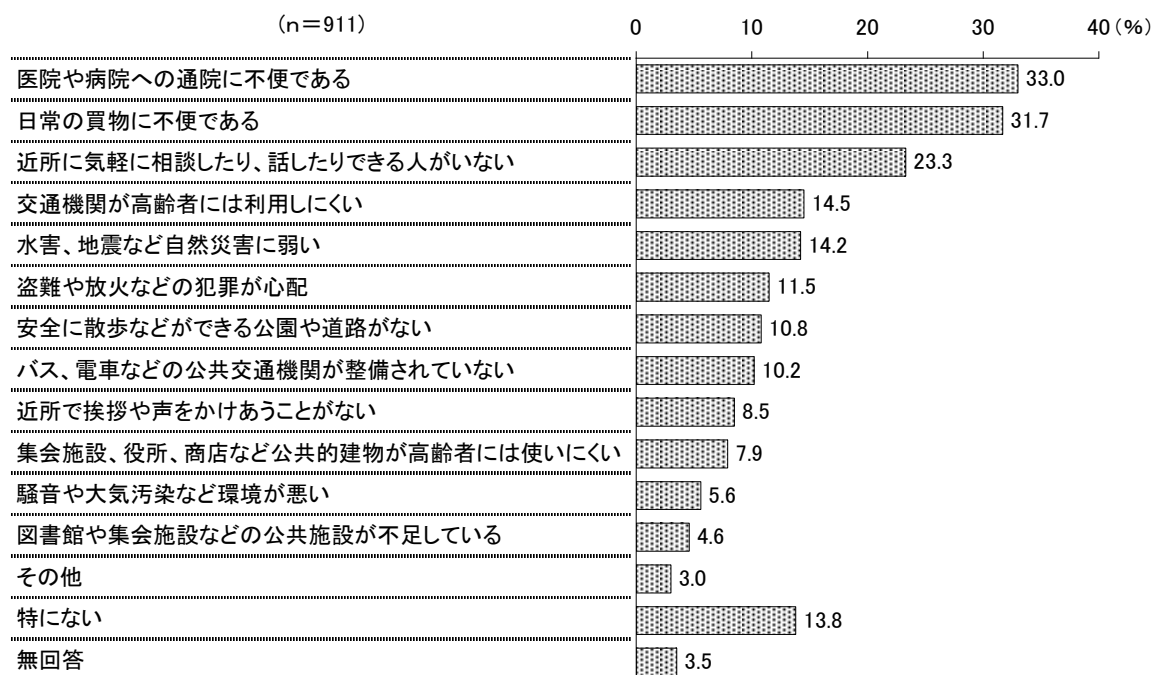
(1) 介護が必要になった場合の希望する生活

「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が47.5%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の介護施設に入りたい」(24.6%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(11.0%)と続いている。



(2) 高齢者が感じる地域の問題点 (複数回答)

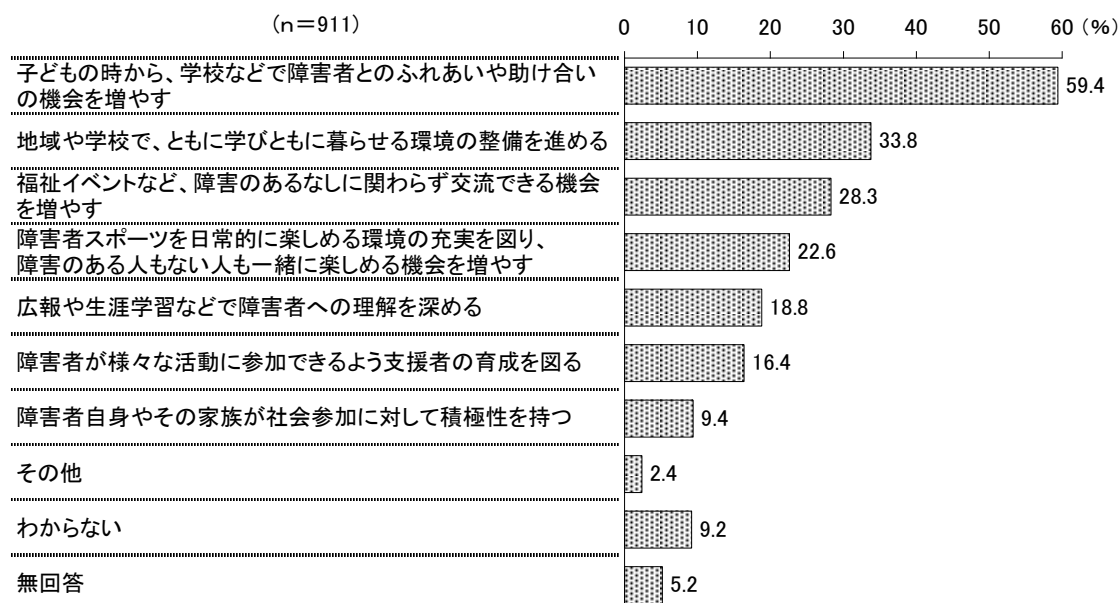
「医院や病院への通院に不便である」が 33.0%で最も高く、次いで「日常の買物に不便である」(31.7%)、「近所に気軽に相談したり、話したりできる人がいない」(23.3%)と続いている。



10 障害者支援について

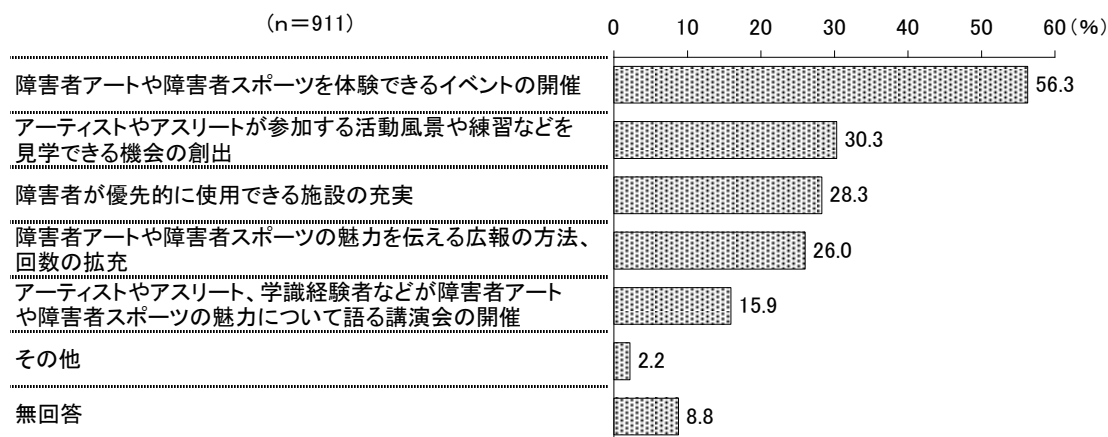
(1) 心のバリアフリーを進めていくために大切なこと (複数回答)

「子どもの時から、学校などで障害者とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が 59.4%で最も高く、次いで「地域や学校で、ともに学びともに暮らせる環境の整備を進める」(33.8%)、「福祉イベントなど、障害のあるなしに関わらず交流できる機会を増やす」(28.3%)と続いている。



(2) 障害者アートや障害者スポーツを普及するために必要な取り組み（複数回答）

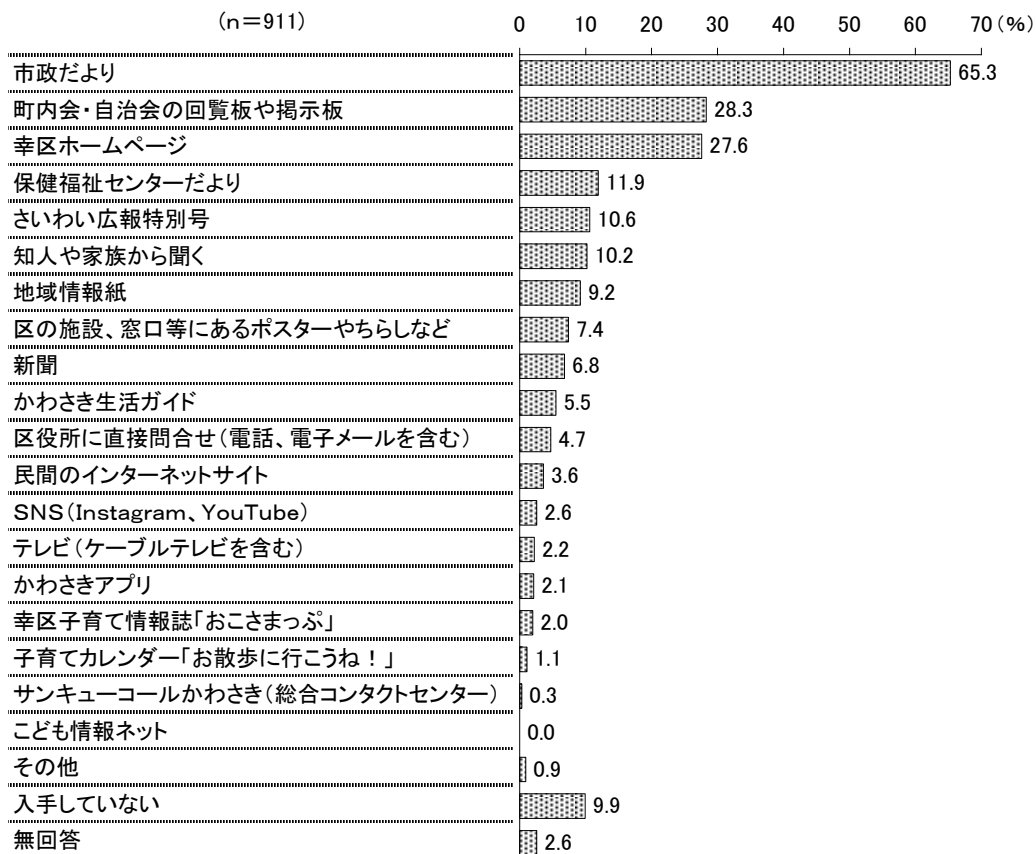
「障害者アートや障害者スポーツを体験できるイベントの開催」が 56.3%で最も高く、次いで「アーティストやアスリートが参加する活動風景や練習などを見学できる機会の創出」（30.3%）、「障害者が優先的に使用できる施設の充実」（28.3%）と続いている。



11 行政の情報について

(1) 行政情報の入手方法（複数回答）

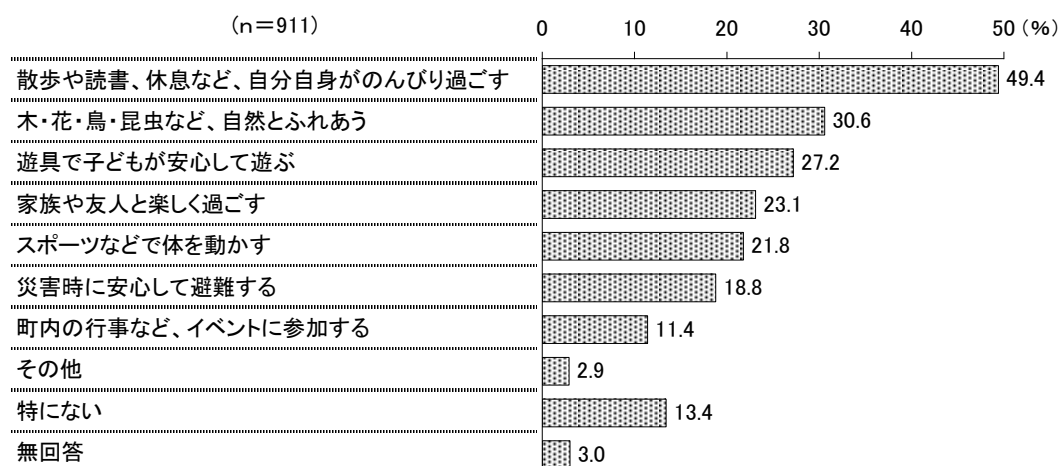
「市政だより」が 65.3%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板や掲示板」（28.3%）、「幸区ホームページ」（27.6%）と続いている。



12 公園の利用について

(1) 公園の利用方法（複数回答）

「散歩や読書、休息など、自分自身がのんびり過ごす」が49.4%で最も高く、次いで「木・花・鳥・昆虫など、自然とふれあう」（30.6%）、「遊具で子どもが安心して遊ぶ」（27.2%）と続いている。



13 自由意見

「区役所の窓口対応について」（39件）が最も多く、次いで「区役所、行政全般について」（29件）、「バス・鉄道などの公共交通機関について」（28件）、「公園・緑地・河川の整備について」（20件）と続いている。

順位	項目	件数
第1位	区役所の窓口対応について	39
第2位	区役所、行政全般について	29
第3位	バス・鉄道などの公共交通機関について	28
第4位	公園・緑地・河川の整備について	20
第5位	生活環境について	14
〃	道路整備について	14



令和4年度 幸区区民アンケート調査 <概要版>

令和5年2月

発行 幸区役所 まちづくり推進部企画課

〒212-8570 川崎市幸区戸手本町 1-11-1

TEL 044-556-6612(直通)

FAX 044-555-3130

メールアドレス 63kikaku@city.kawasaki.jp